

経営比較分析表（令和6年度決算）

北海道札幌市 円山動物園駐車場

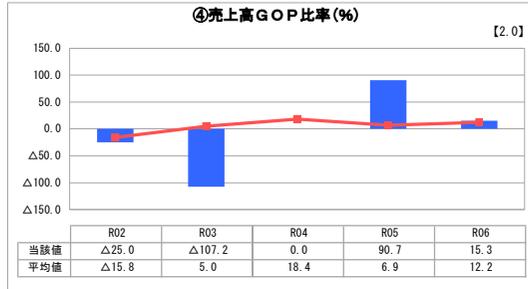
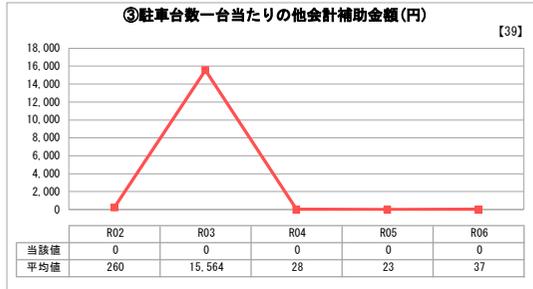
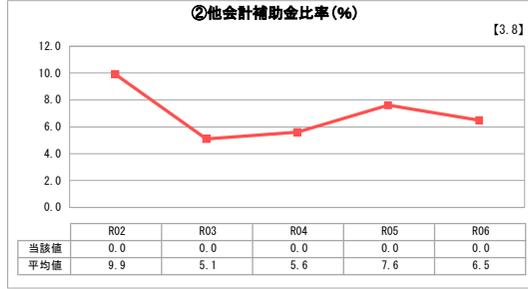
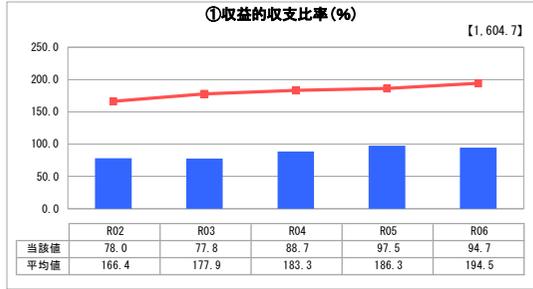
業務名	業種名	事業名	類似施設区分	管理者の情報
法非適用	駐車場整備事業	-	A1B2	非設置
自己資本構成比率(%)	種類	構造	建設後の経過年数(年)	
該当数値なし	その他駐車場	立体式	30	

立地	周辺駐車場の需給実態調査	駐車場使用面積(m ²)
公共施設	無	25,236
収容台数(台)	時間当たりの基本料金(円)	指定管理者制度の導入
888	0	代行制

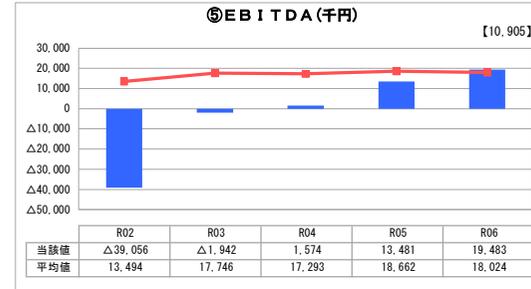
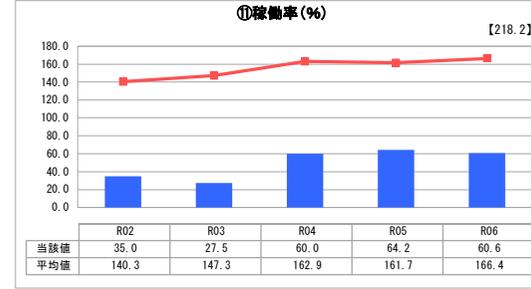
グラフ凡例

- 当該施設値（当該値）
- 類似施設平均値（平均値）
- 【】 令和6年度全国平均

1. 収益等の状況



3. 利用の状況



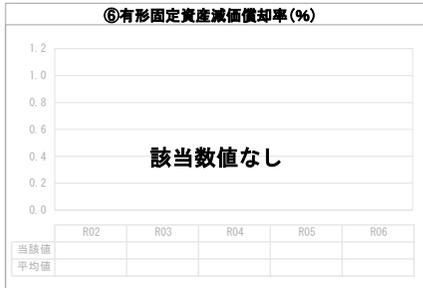
分析欄

1. 収益等の状況について
 令和6年度は、収益的収支比率が94.7%と100%未満であり、単年度の収支では赤字となっている。これは令和6年度に駐車場機器の更新(約3千万円)を行ったことによる赤字であるが、令和7年度以降は新たな機器更新等は当面予定されていない。このことから、令和7年度以降は、新型コロナウイルスの影響がない令和元年度以前同様に100%を超える想定であり、当該事業の収益性は高いものと判断できる。

2. 資産等の状況について
 企業価値高対料金収入比率については、令和3年度以降減少傾向が続いており、資産状況の改善が進んでいる。新型コロナウイルス感染症による影響が少なく、料金収入が増加しているためである。上記1のとおり、当該事業の収益性は好転していくと想定され、将来の企業価値の償還について支障はないと判断できる。

3. 利用の状況について
 稼働率は令和5年度比で減少したが、繁忙期には駐車待ちの列ができていない状況であり、稼働率は概ね良好と判断している。なお、駐車場利用は円山公園の利用者数の影響を受けるものであるため、各施設と連携することにより、現在の60%程度の稼働率を維持していくことが必要と考えている。

2. 資産等の状況

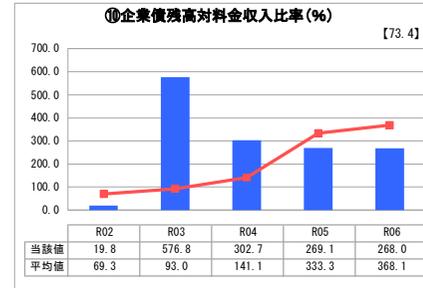


⑦敷地の地価(千円)

2,637,047

⑧設備投資見込額(千円)

0



全体総括
 円山公園駐車場事業の経営については、指定管理者制度を採用しており、収益等の状況からも経営の効率性、健全性は良好と考えられる。また、令和6年度の駐車場機器の更新によりキャッシュレス対応などの利用者の利便性向上にも努めているところである。今後は、より一層、円山公園の他の施設と連携を深め、稼働率を維持し、安定した経営を図っていくこととする。